

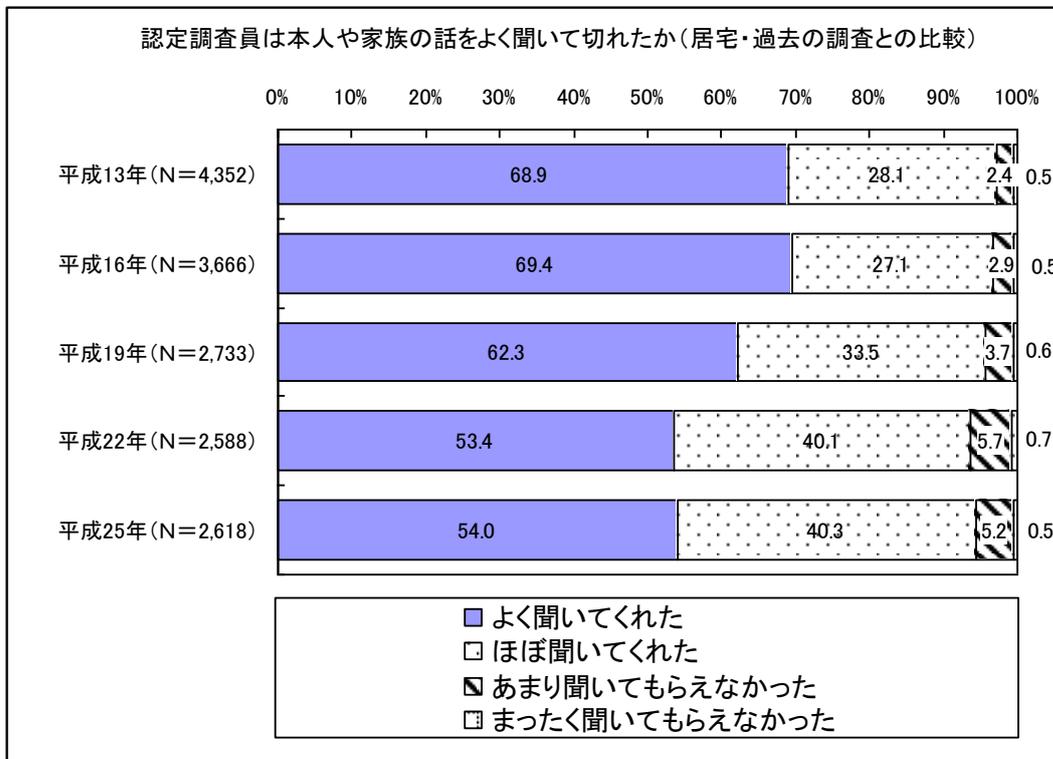
第7章 調査結果のとりまとめ

第1 介護保険サービス

1 認定調査と要介護認定

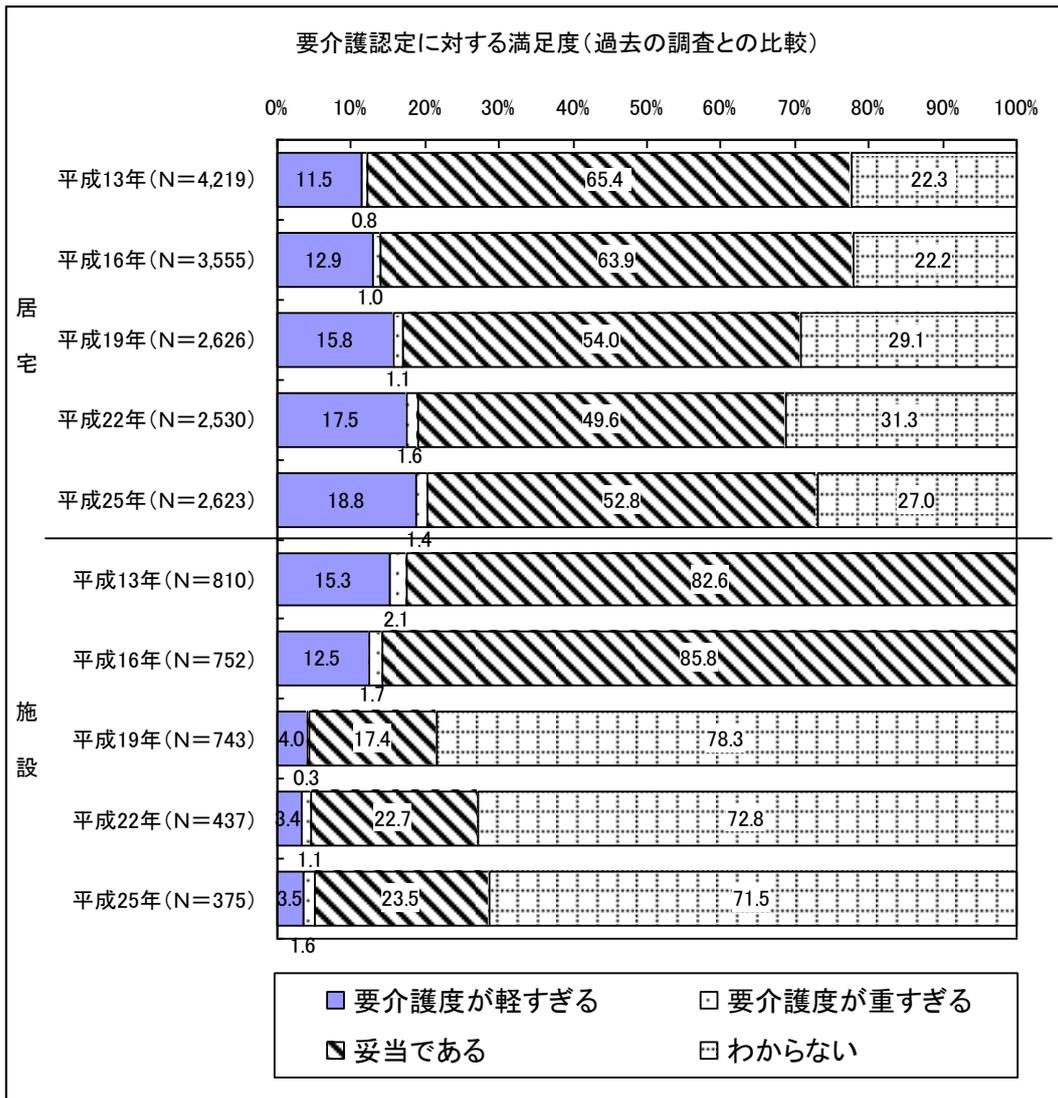
(1) 認定調査

「要介護認定の認定調査員は、居宅要介護者や・要支援認定者や家族の話をよく聞いてくれましたか」という設問に対しては、「よく聞いてくれた」と回答した人が54.0%と最も多く、次いで「ほぼ聞いてくれた」が40.3%となっており、これらを合わせた“認定調査員は話を聞いてくれたと感じている人”が約9割（94.3%）を占めています。また、“認定調査員は話を聞いてくれたと感じている人”は前回調査と比べて特に大きな変化はみられません。



(2) 要介護認定

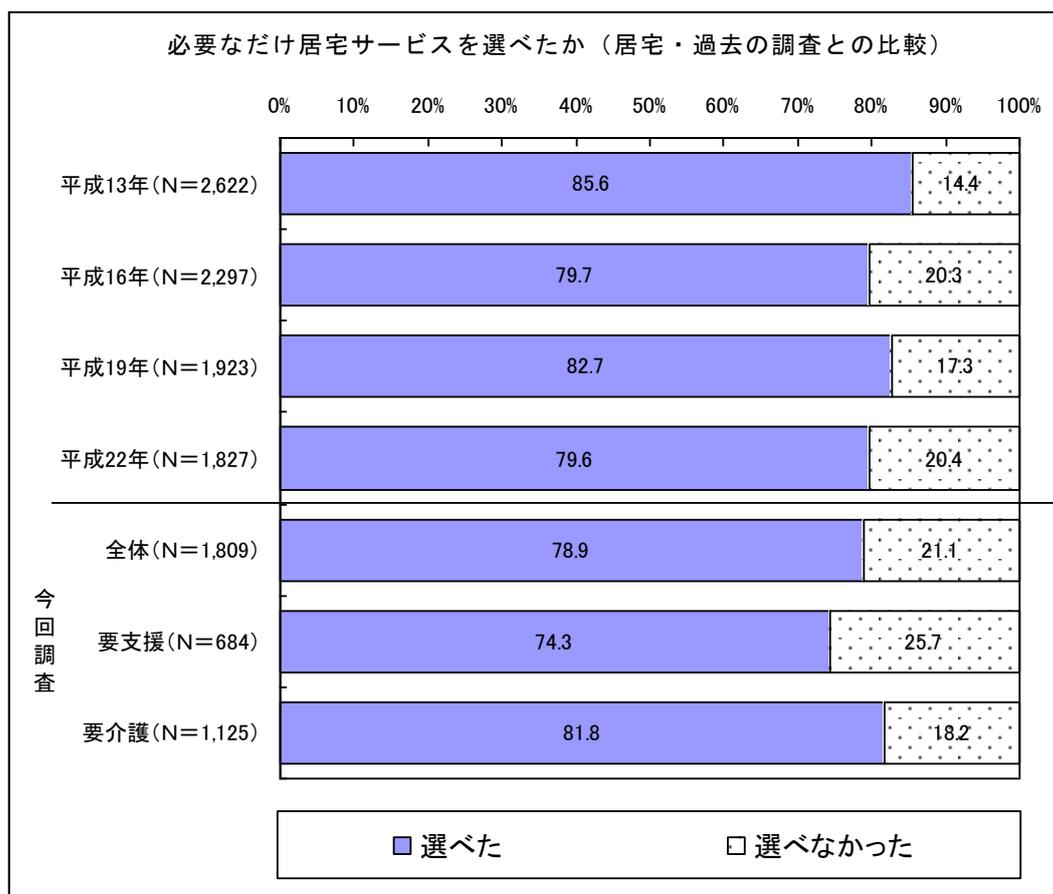
居宅の要介護認定に対する評価としては、「要介護度が軽すぎる」と回答した人は18.8%となっているのに対し、「要介護度が重すぎる」と回答した人は1.4%とごくわずかとなっています。「要介護度が軽すぎる」と回答した人は上昇傾向にあり、平成13年と比べて7.3ポイント増加しています。また、介護保険施設入所者では、「妥当である」と回答した人が約2割、「わからない」と回答した人が約7割を占めています。上記の結果からも、要介護認定に対する評価は概ね肯定的意見が多く、公平な要介護認定がなされていると考えられます。



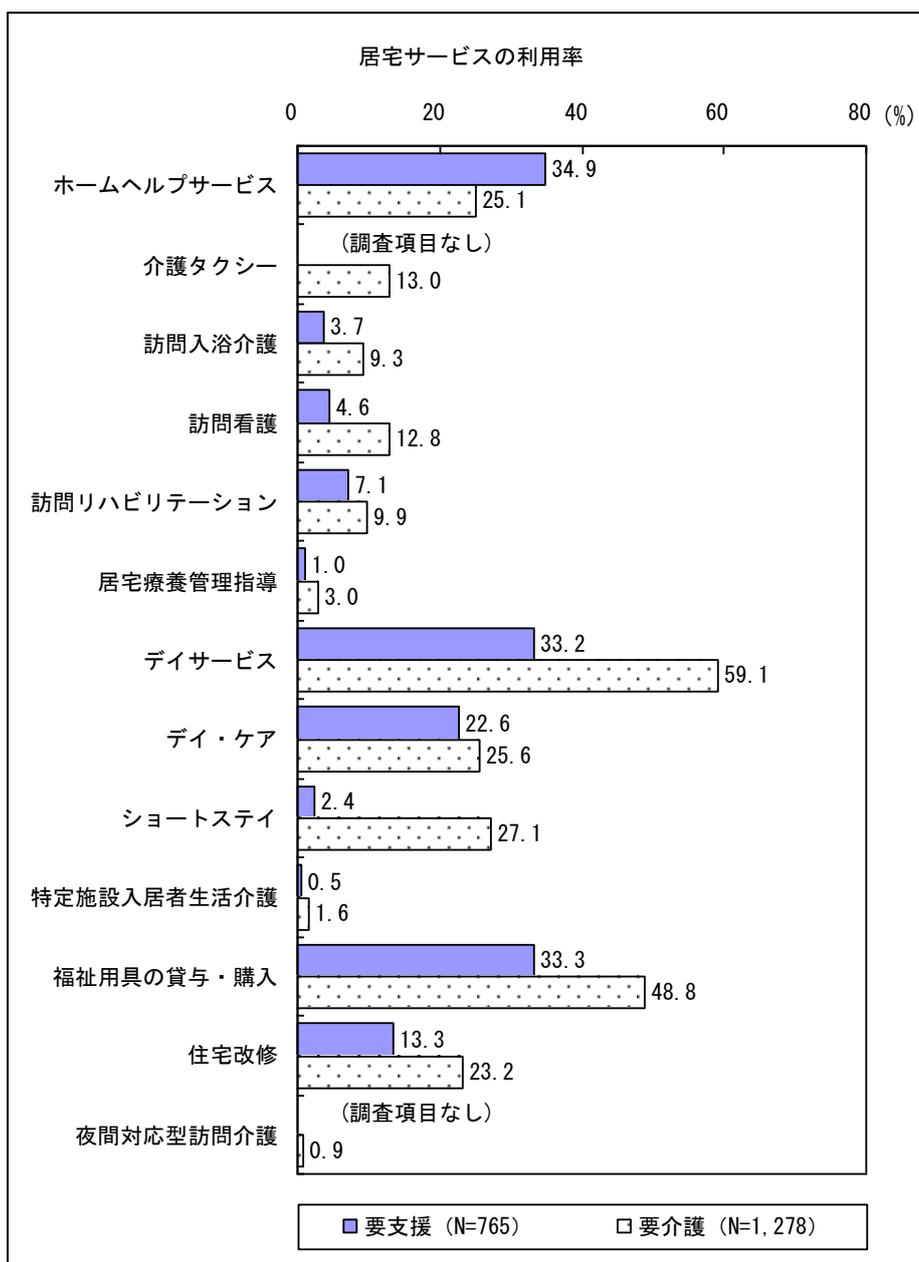
2 居宅サービス

(1) サービスの利用状況

居宅サービスを利用している人への「自分が必要と思うサービスを必要なだけ選べましたか」という設問に対しては、「選べた」と回答した人が 78.9%、「選べなかった」と回答した人が 21.1% となっています。「選べた」と回答した人は、要支援利用者は要介護利用者より 7.5 ポイント低くなっています。また、前回調査と比べて特に大きな変化はみられません。

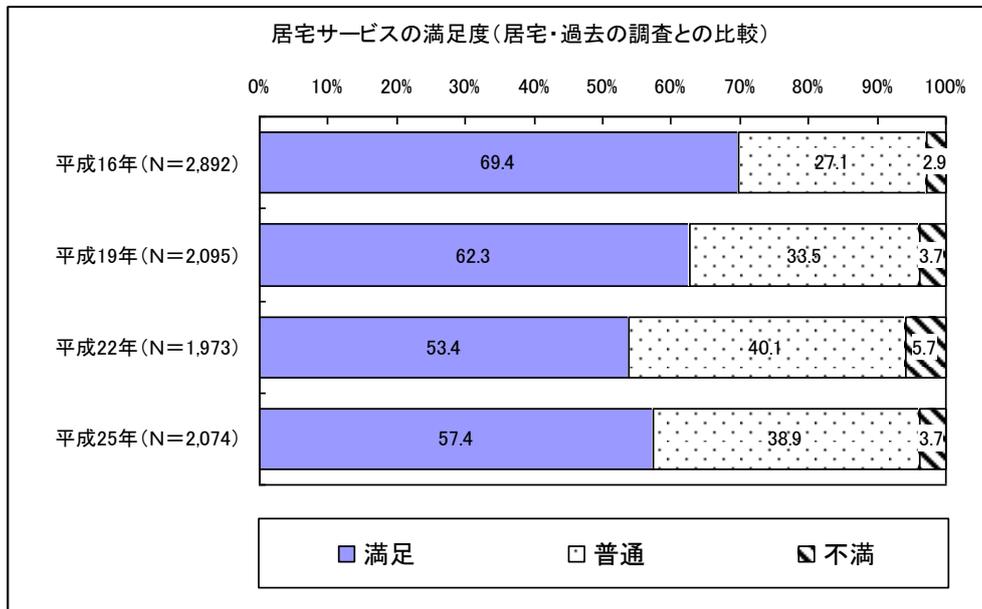


居宅サービスの利用率をみると、要支援利用者が高いのは「ホームヘルプサービス」(34.9%)、「福祉用具の貸与・購入」(33.3%)、「デイサービス」(33.2%)、などであり、要介護利用者が高いのは「デイサービス」(59.1%)、「福祉用具の貸与・購入」(48.8%)、「ショートステイ」(27.1%)、「デイ・ケア」(25.6%)、「ホームヘルプサービス」(25.1%) などとなっています。要支援利用者の訪問系サービスの合計は51.3%、通所系サービスの合計は55.8%であり、要介護利用者の訪問系サービスの合計は60.1%、通所系サービスの合計は84.7%となっています。



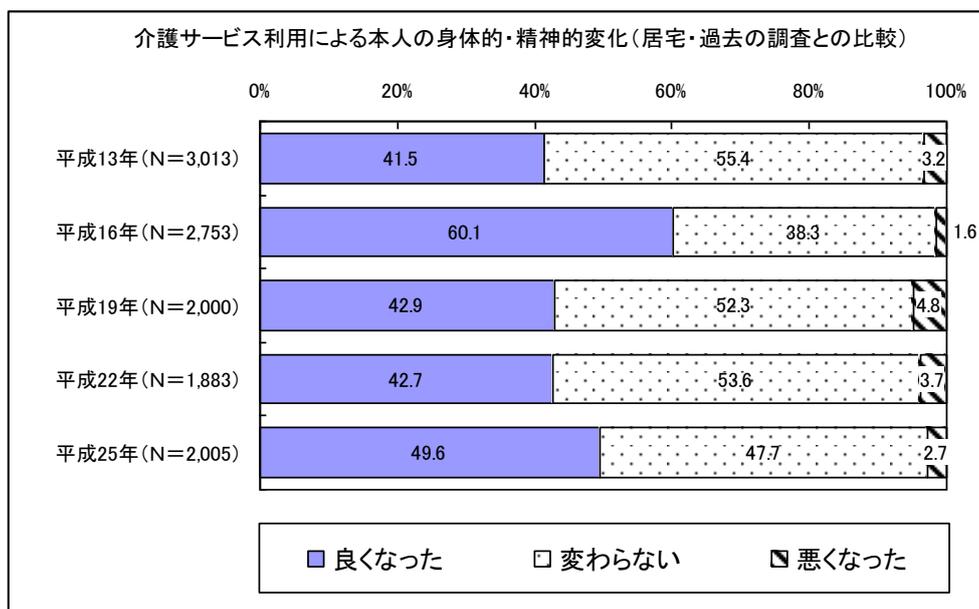
(2) 居宅サービスの満足度

居宅サービスを利用している人のサービスの満足度については、「満足」と回答した人が 57.4%、「不満」と回答した人は 3.7%とごくわずかとなっており、サービスに対する満足度は高くなっています。経年比較でみると、「満足」と回答した人は平成 22 年までは減少傾向にあったものの、平成 25 年では前回調査に比べて 4.0 ポイントとやや増加しています。



(3) 本人の身体的・精神的変化

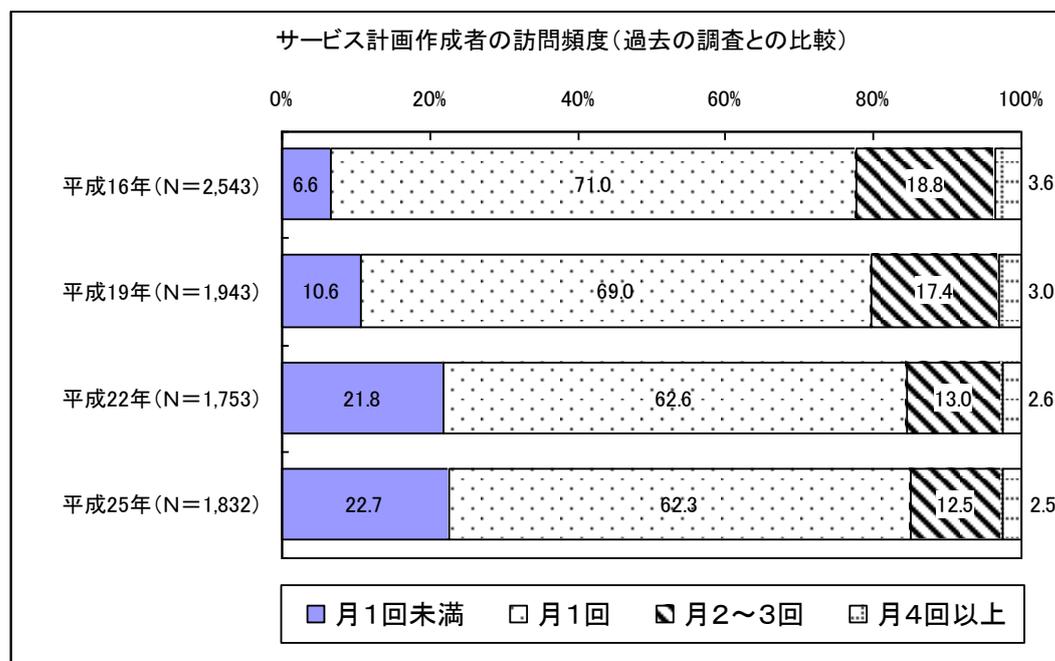
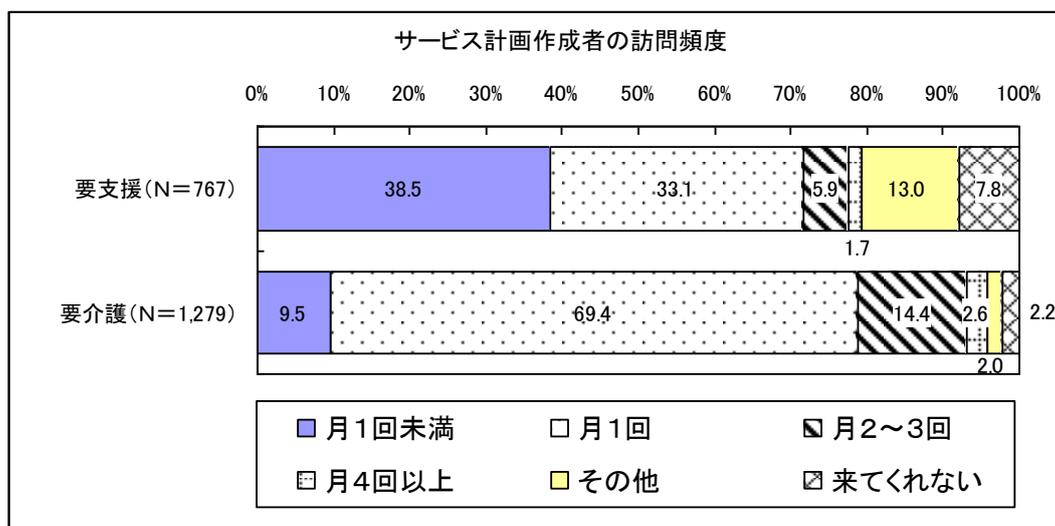
居宅サービスを利用した人の身体的・精神的変化については、「良くなった」と回答した人が 49.6%、「悪くなった」と回答した人は 2.7%とごくわずかとなっており、多くの居宅サービス利用者がサービスを利用することにより身体的・精神的にも軽減されている状況がうかがえます。経年比較でみると、「良くなった」と回答した人は、前回調査に比べて 6.9 ポイント増加しています。



3 サービス計画

(1) サービス計画作成者の訪問頻度

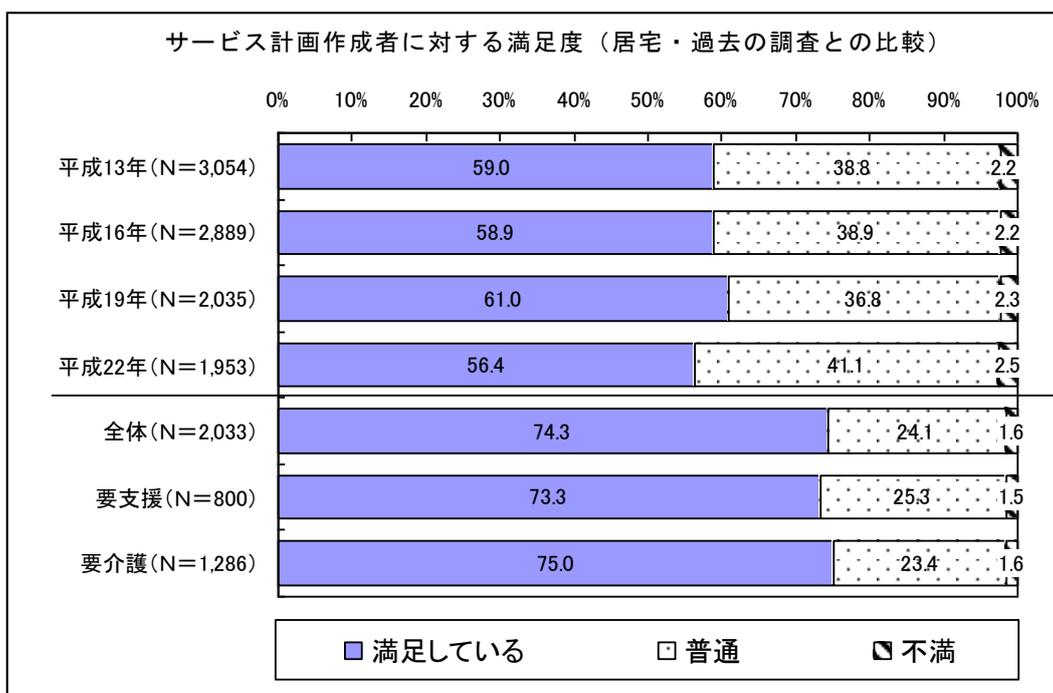
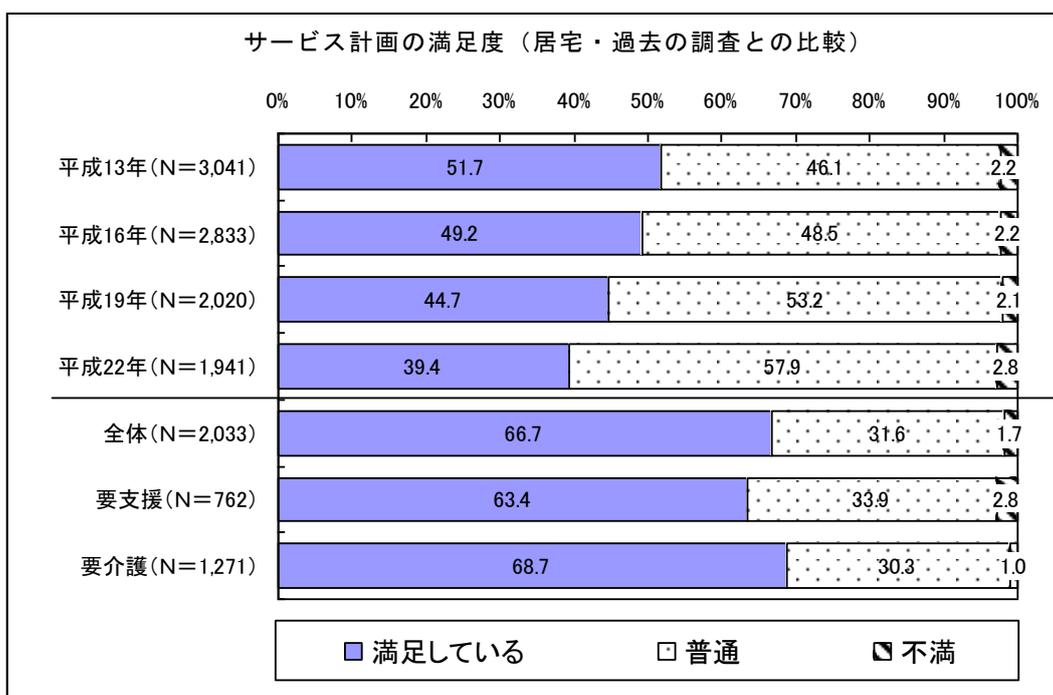
介護サービス計画および介護予防サービス計画担当者のサービス利用者宅への訪問頻度をサービス利用者に聞いたところ、要支援者利用者では「月1回未満」が38.5%と最も多く、次いで「月1回」が33.1%となっています。要介護者利用者では、「月1回」が69.4%と最も多くなっています。また、「来てくれない」は要支援利用者では7.8%、要介護利用者では2.2%となっています。経年比較でみると、前回調査と特に大きな変化はみられません。



(2) サービス計画等の満足度

居宅サービス利用者のサービス計画に対する満足度については、「満足している」人は66.7%となっており、前回調査と比較しても27.3ポイント増加しています。

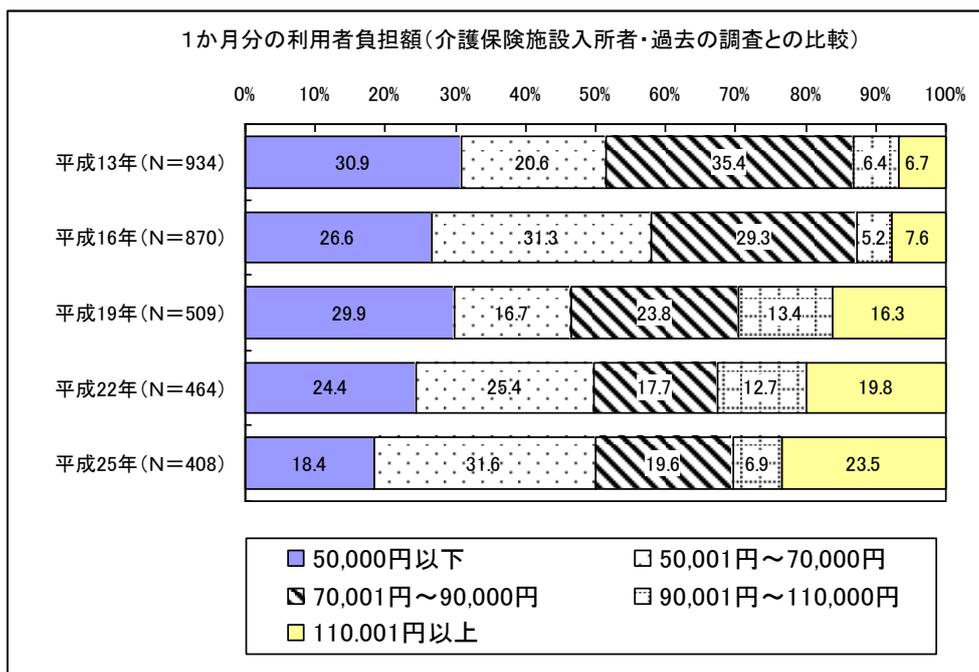
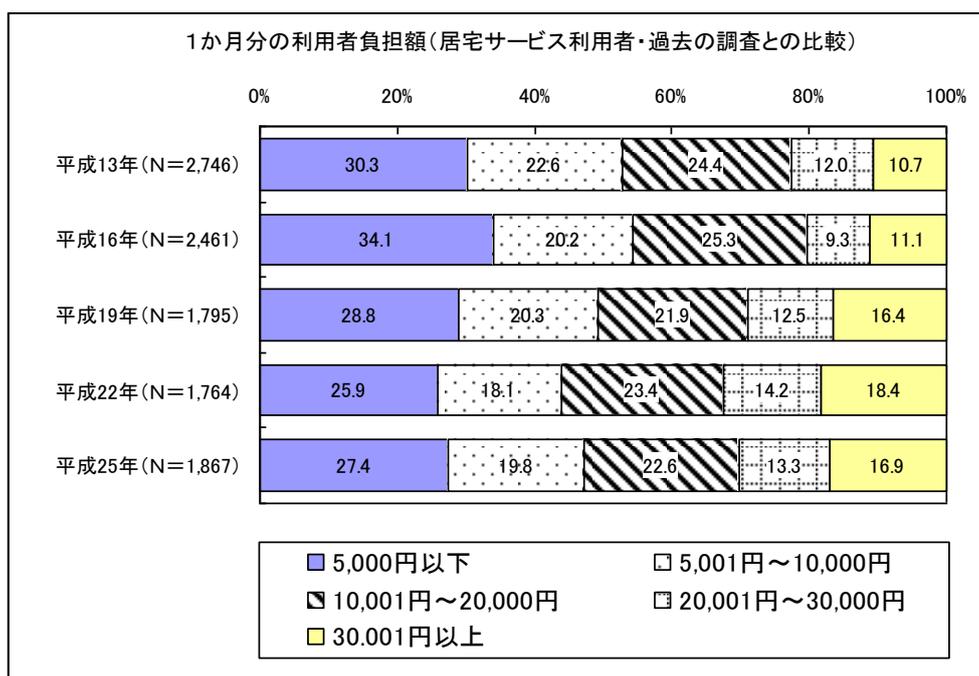
居宅サービス利用者のサービス計画作成者の対応に対する満足度については、「満足している」人は74.3%と、サービス計画に対する満足度と同様に前回調査と比較しても17.9ポイント上昇しています。



4 利用者負担と介護保険料

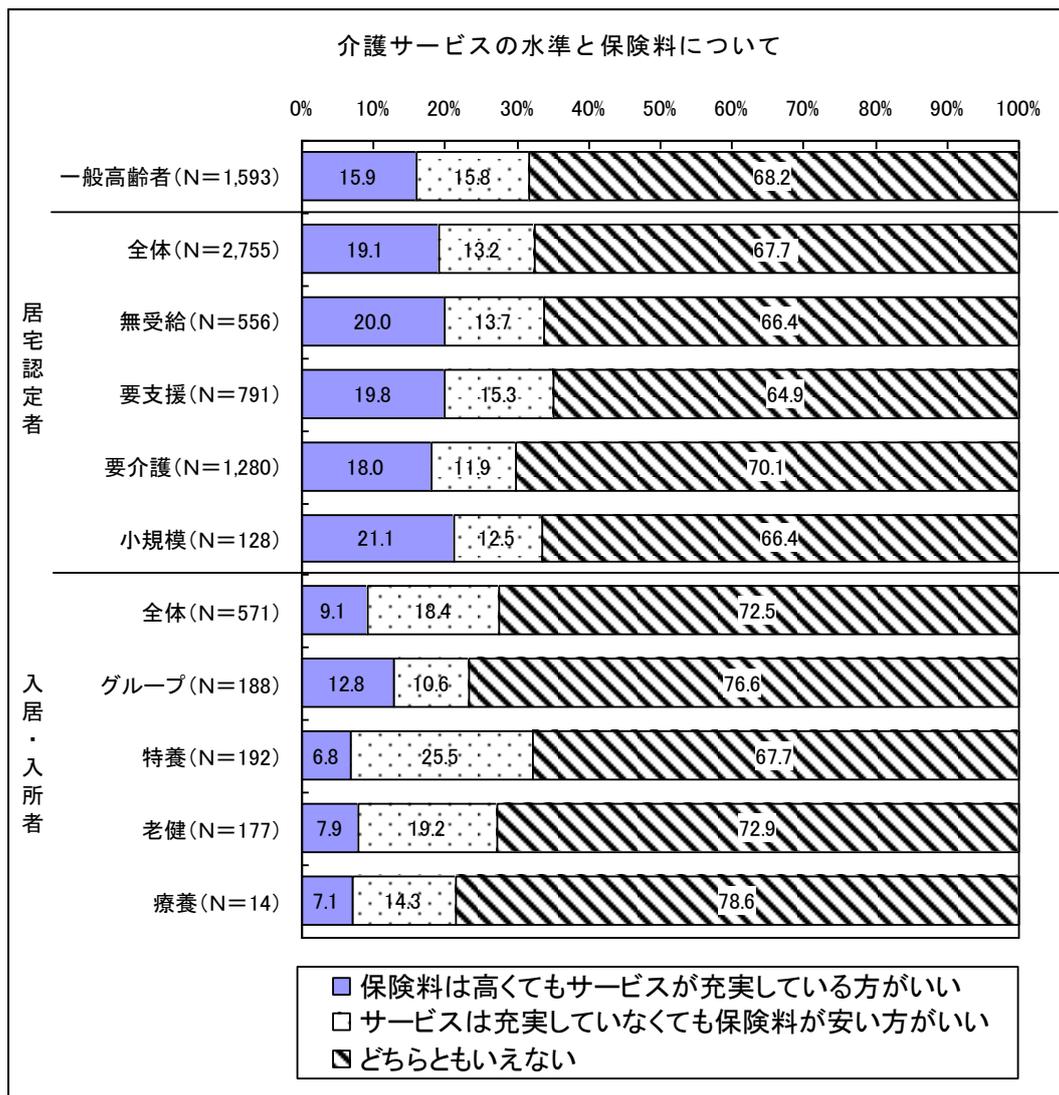
(1) 利用者負担額

1か月分の利用者負担額は、居宅サービス利用者では、「5,000円以下」が、介護保険施設入所者では、「50,001円～70,000円」が最も多くなっています。経年比較でみると、前回調査に比べて、居宅サービス利用者では、「5,000円以下」「5,001～10,000円以下」、介護保険施設入所者では、「50,001円～70,000円」「70,001円～90,000円」「110,001円以上」が増加しています。



(2) 介護サービスの水準と保険料について

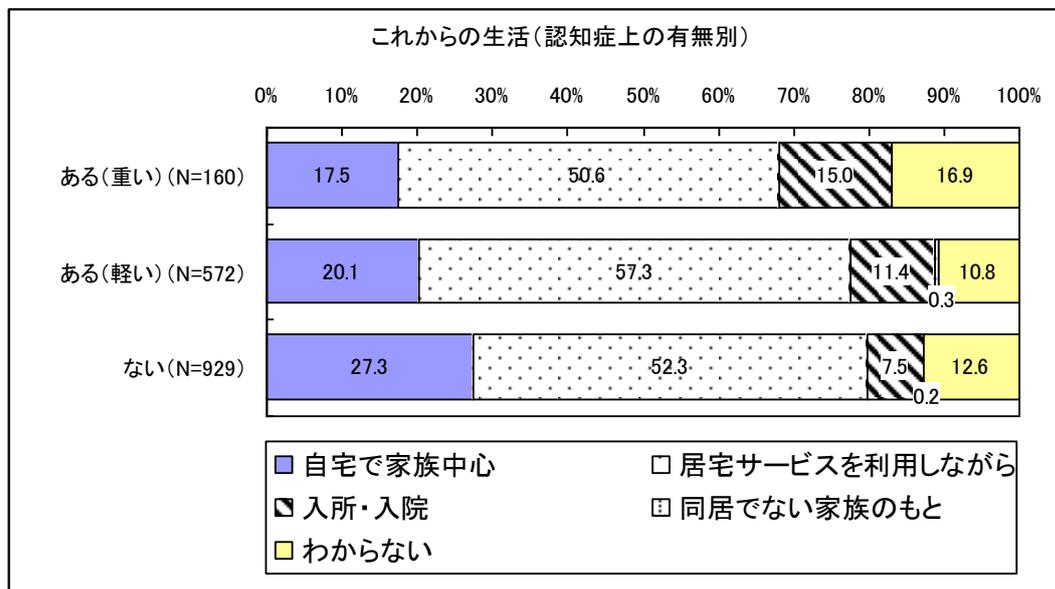
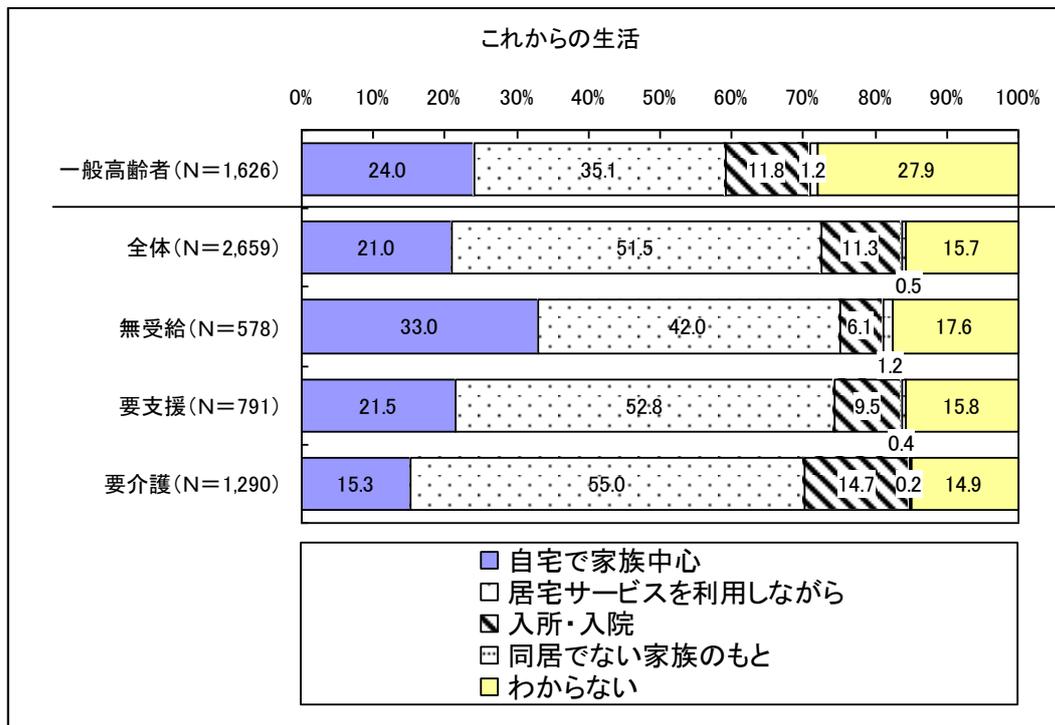
介護サービスの充実と保険料についてたずねたところ、一般高齢者や居宅認定者では「保険料は高くてもサービスが充実している方がいい」が「サービスは充実していても保険料が安い方がいい」を上回っています。中でも、無受給者、要介護、小規模利用者では、「保険料は高くてもサービスが充実している方がいい」が「サービスは充実していても保険料が安い方がいい」を6～8ポイント程度上回っています。また、入居・入所者では、グループホーム利用者が「保険料は高くてもサービスが充実している方がいい」が「サービスは充実していても保険料が安い方がいい」を上回っています。



5 これからの生活

これからの生活をどこでどのように送りたいですかという設問については、「自宅で家族中心」と回答した人の割合は、無受給者が約3割と高くなっています。また、「居宅サービスを利用しながら」は要介護・要支援利用者が高く、「入所・入院」は要介護者が高くなっています。

認知症状別にみると、認知症状の重い人の介護者ほど、「入所・入院」を希望する人の占める割合が高くなっているのに対し、認知症状がない人の介護者では「自宅で家族中心」と回答した人の割合が高くなっています。

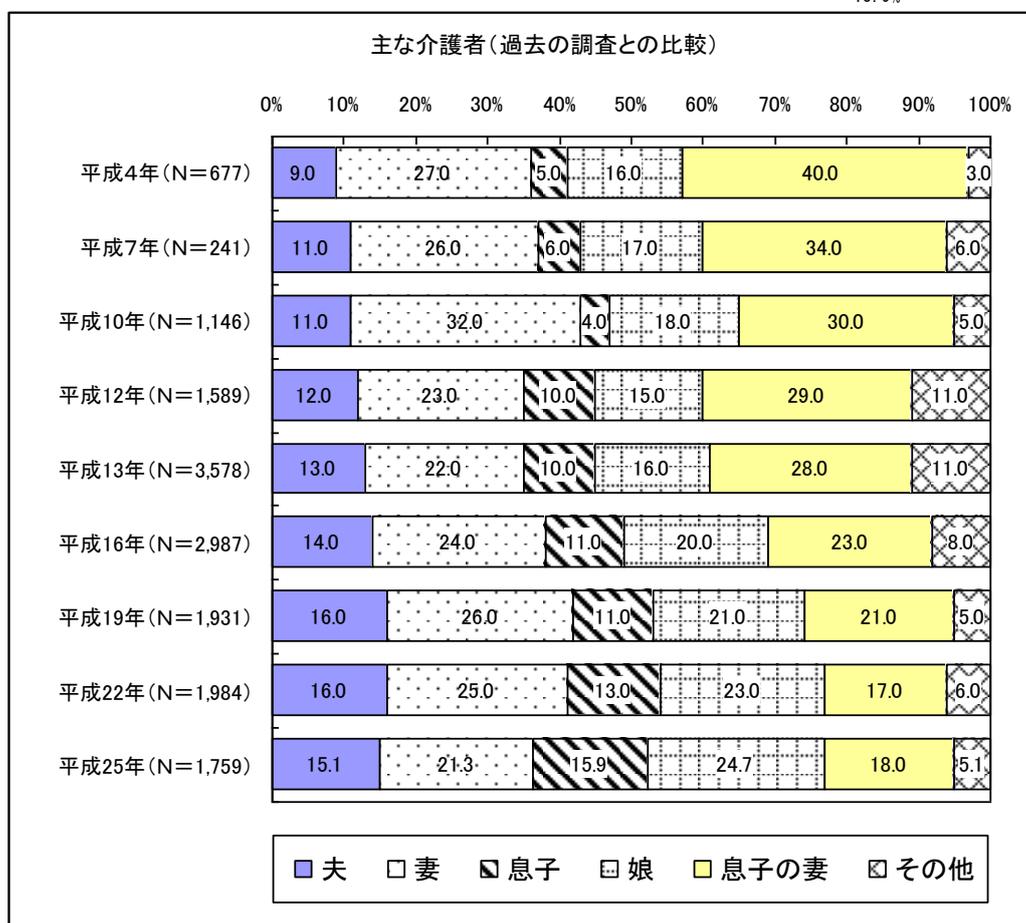
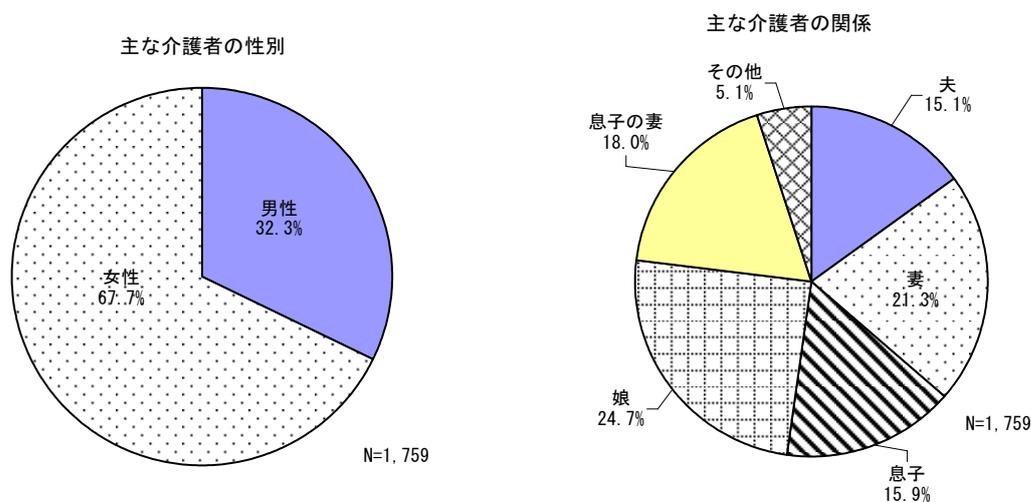


6 介護者

(1) 主な介護者

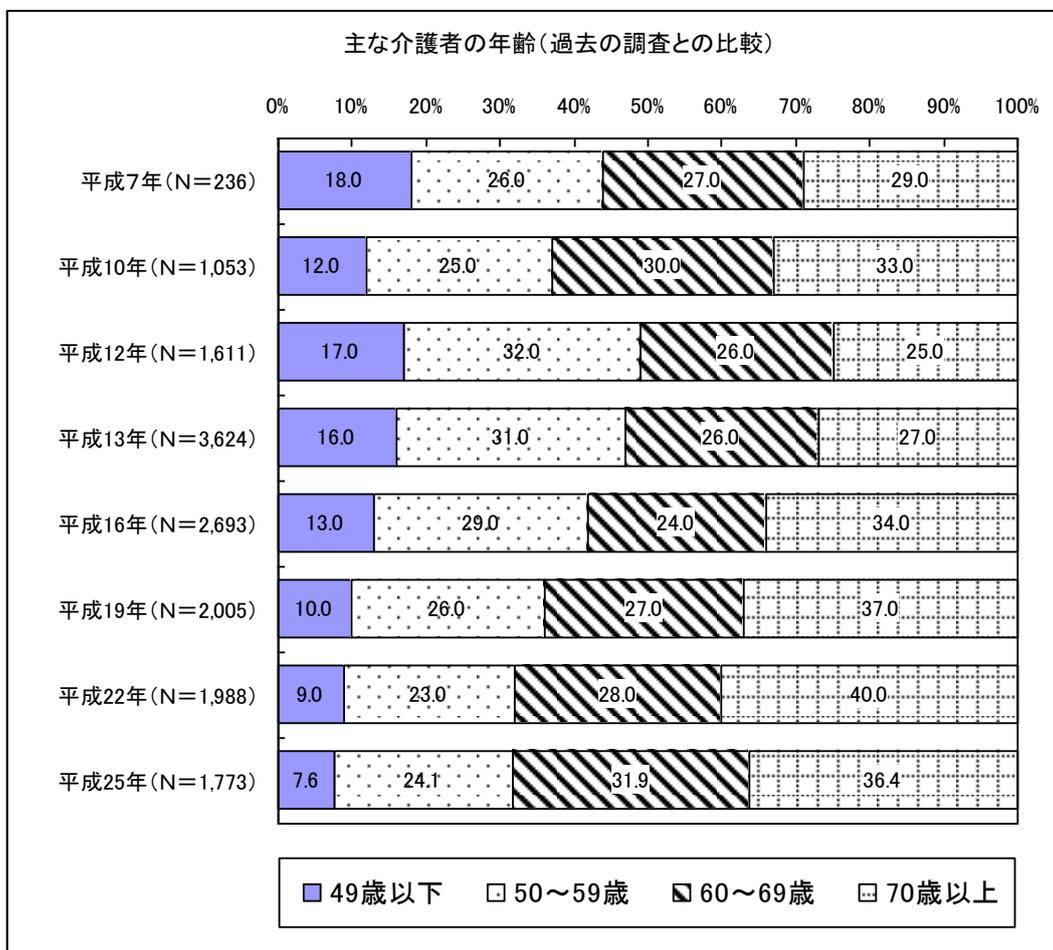
居宅の主な介護者については、「娘」が24.7%と最も多く、次いで「妻」が21.3%、「息子の妻」が18.0%となっており、性別で見ると、女性が67.7%と圧倒的に多くなっています。

主な介護者について、過去8回行った調査と比較すると、「妻」や「息子の妻」は減少傾向となっているのに対し、「夫」「娘」「息子」は増加傾向が続いています。



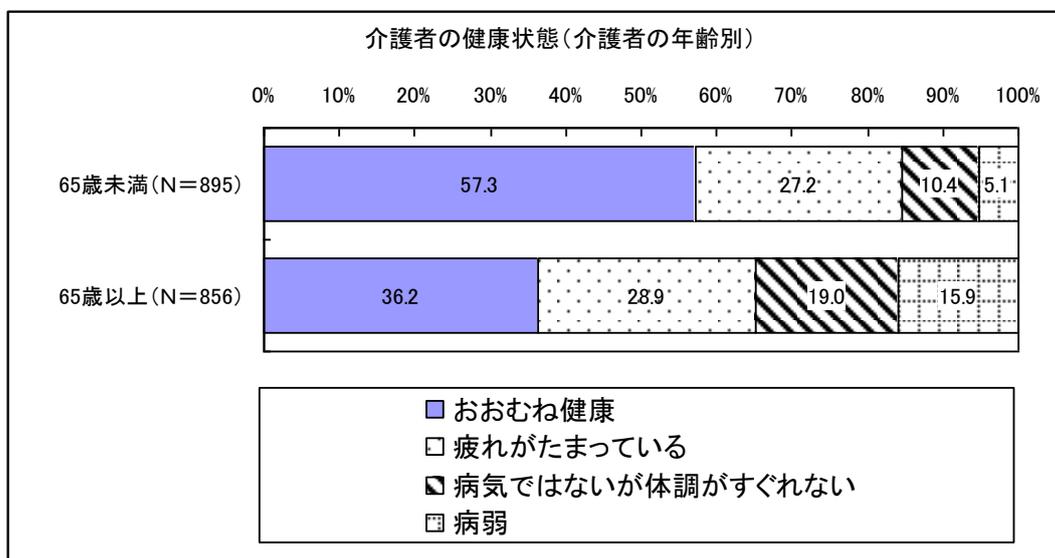
(2) 主な介護者の年齢

居宅の介護者の年齢については、70歳以上の介護者が36.4%となっており、約3分の1は介護者も高齢者である老老介護世帯の割合が高くなっています。過去8回の調査と比較すると、介護者の高齢化が進行していることがうかがえます。



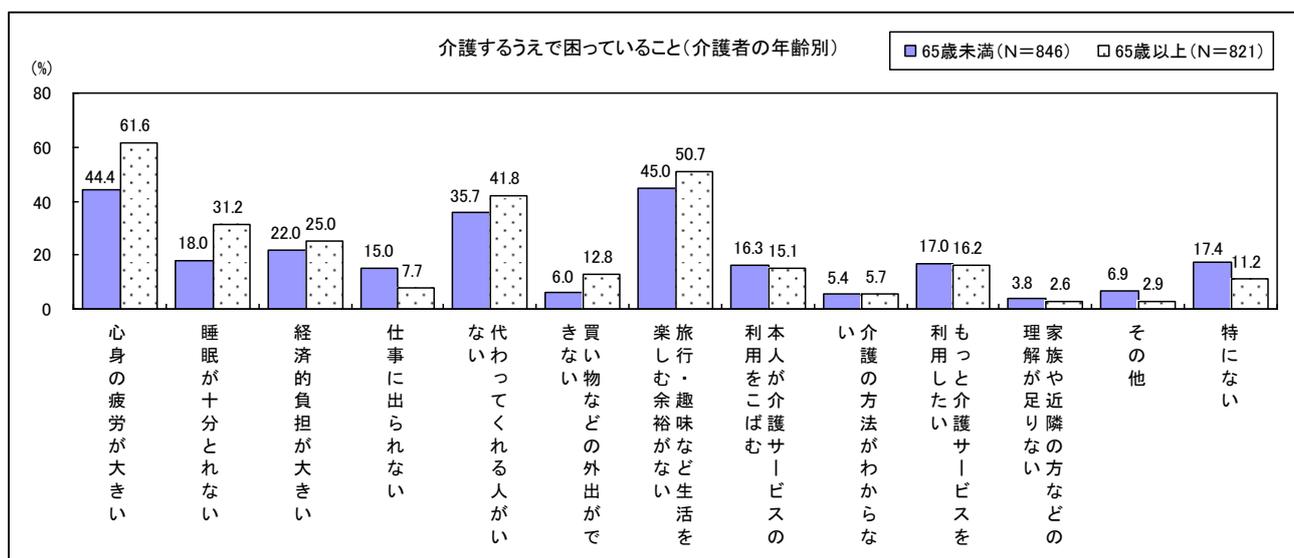
(3) 主な介護者の健康状態

主な介護者の健康状態を年齢別で見ると、「おおむね健康」と回答した人の割合は、65歳以上に比べ65歳未満で高くなっています。



(4) 介護をするうえで困っていること

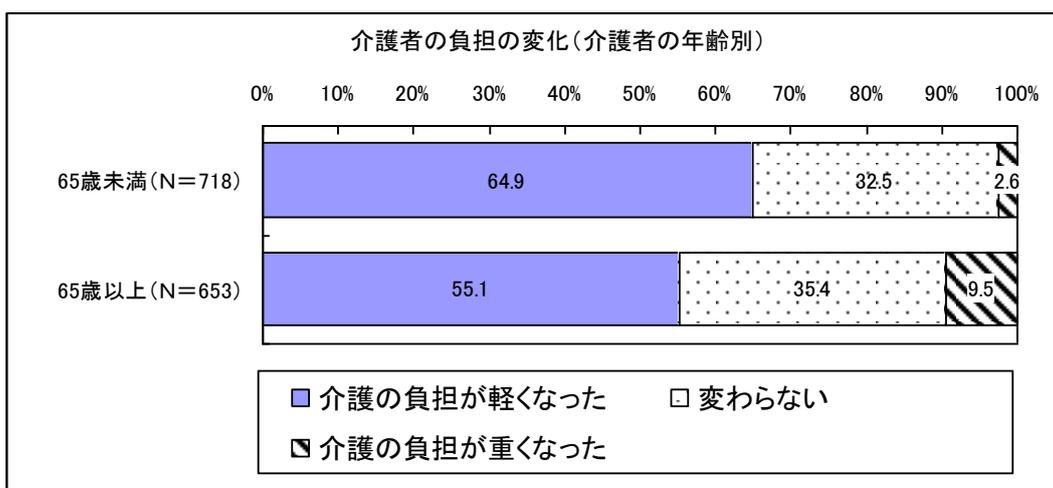
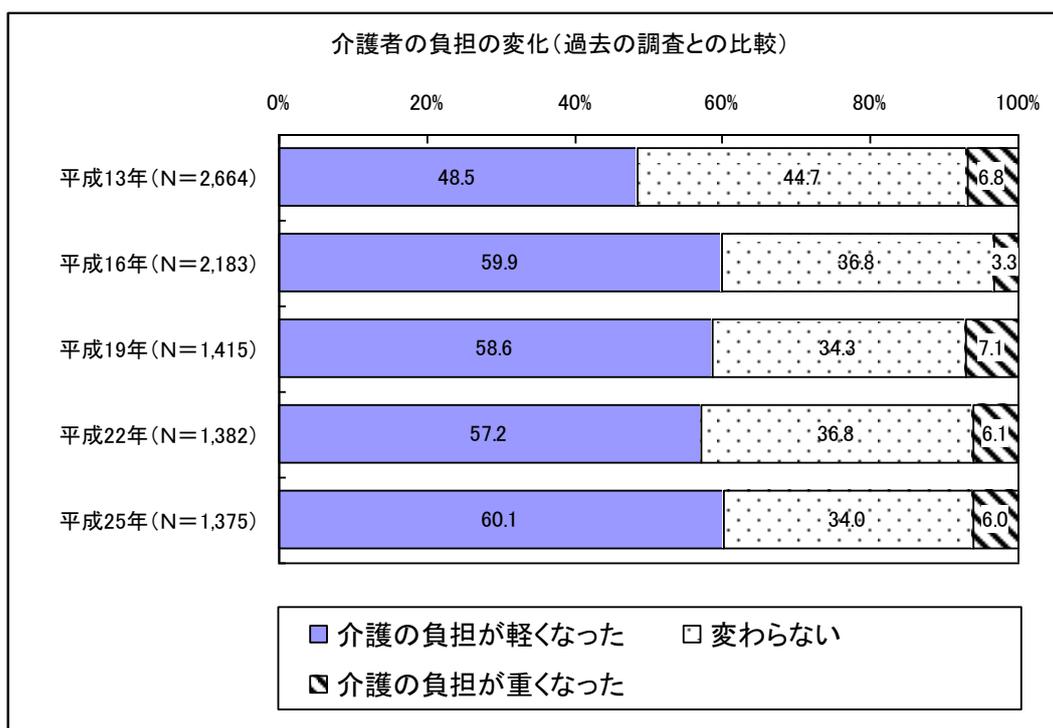
介護するうえで困っていることを年齢別で見ると、ほとんどの項目で65歳以上の占める割合が高くなっており、中でも「心身の疲労が大きい」「睡眠が十分とれない」などでは、10ポイント以上の差がみられます。



(5) 介護負担の変化

要介護・要支援利用者が介護サービスを受けた結果、介護者の精神的・肉体的な介護負担の変化については、「介護の負担が軽くなった」が60.1%、「変わらない」が34.0%、「介護の負担が重くなった」が6.0%となっています。経年比較でみると、前回調査に比べて、「介護の負担が軽くなった」は2.9ポイントとやや増加しています。

介護者の年齢別でみると、「介護の負担が軽くなった」と回答した人は、65歳以上に比べて65歳未満で占める割合は高くなっており、65歳以上の介護者世帯では介護の負担感が高いことがうかがえます。

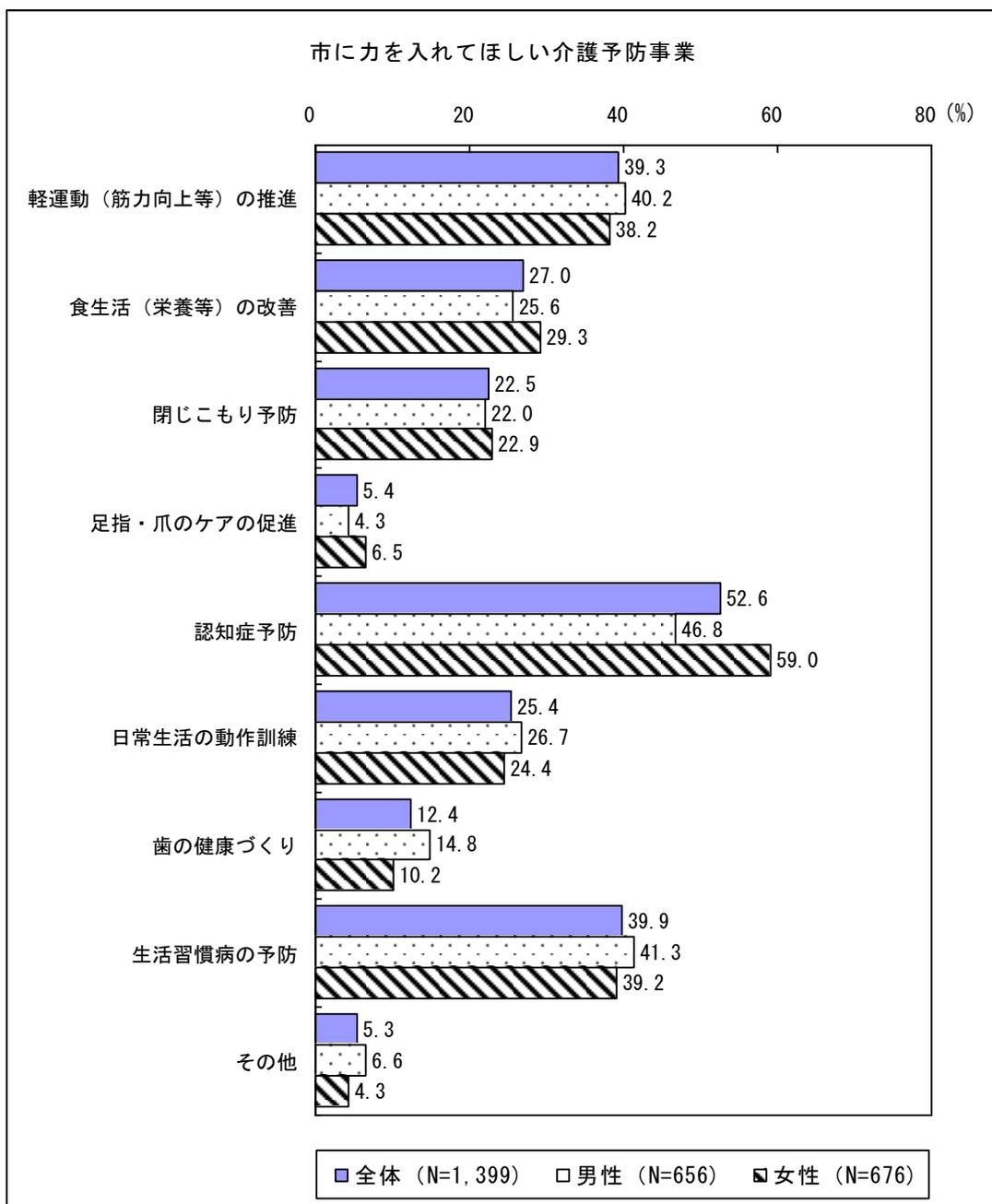


第2 介護保険サービス以外

1 介護予防事業

(1) 市に力を入れてほしい介護予防事業

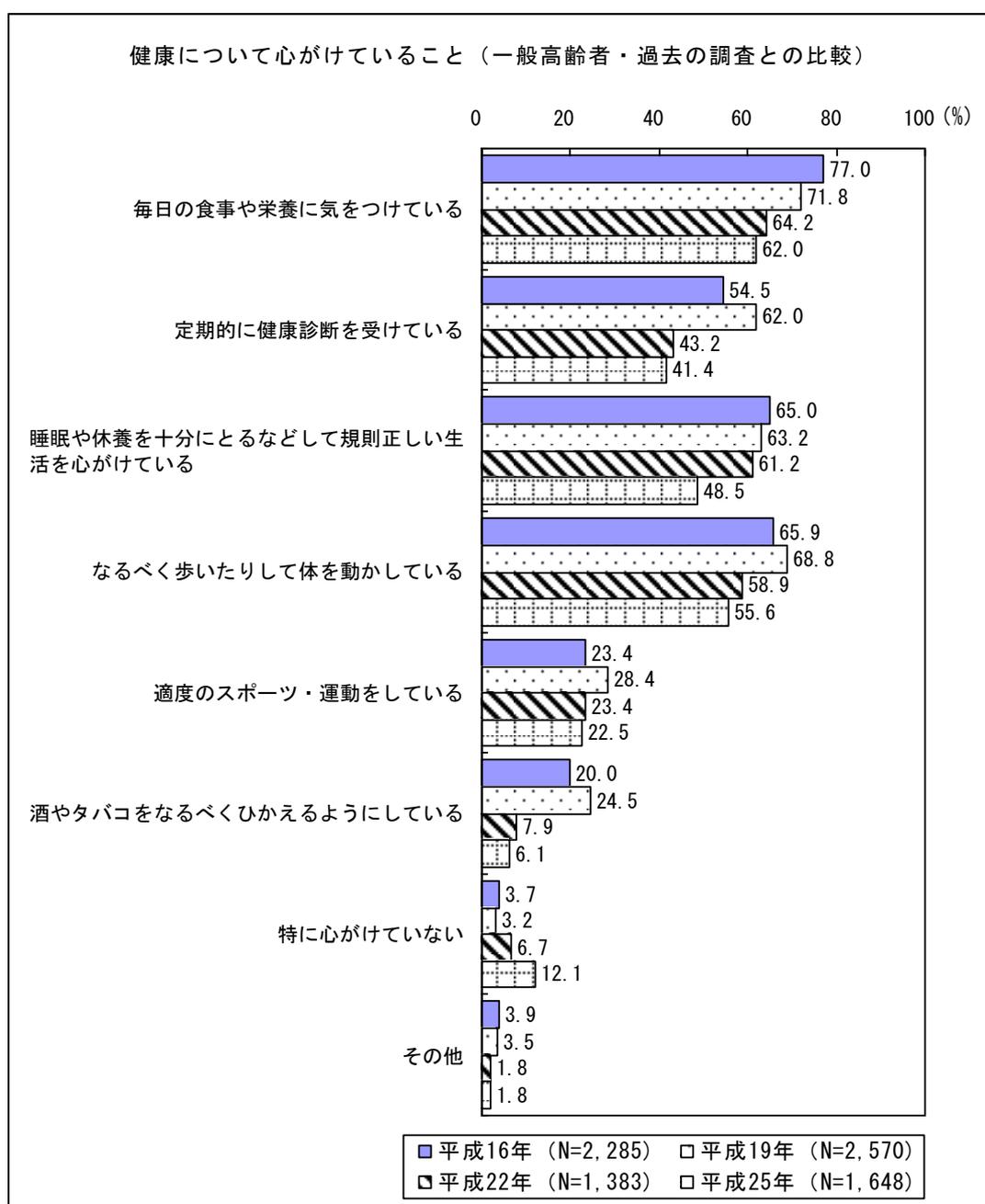
市に力を入れてほしい介護予防事業については、男女とも「認知症予防」「生活習慣病の予防」、「軽運動（筋力向上等）の推進」が上位3項目としてあげられています。中でも「認知症予防」は男性に比べ女性からの要望が高い項目となっています。



2 健康意識

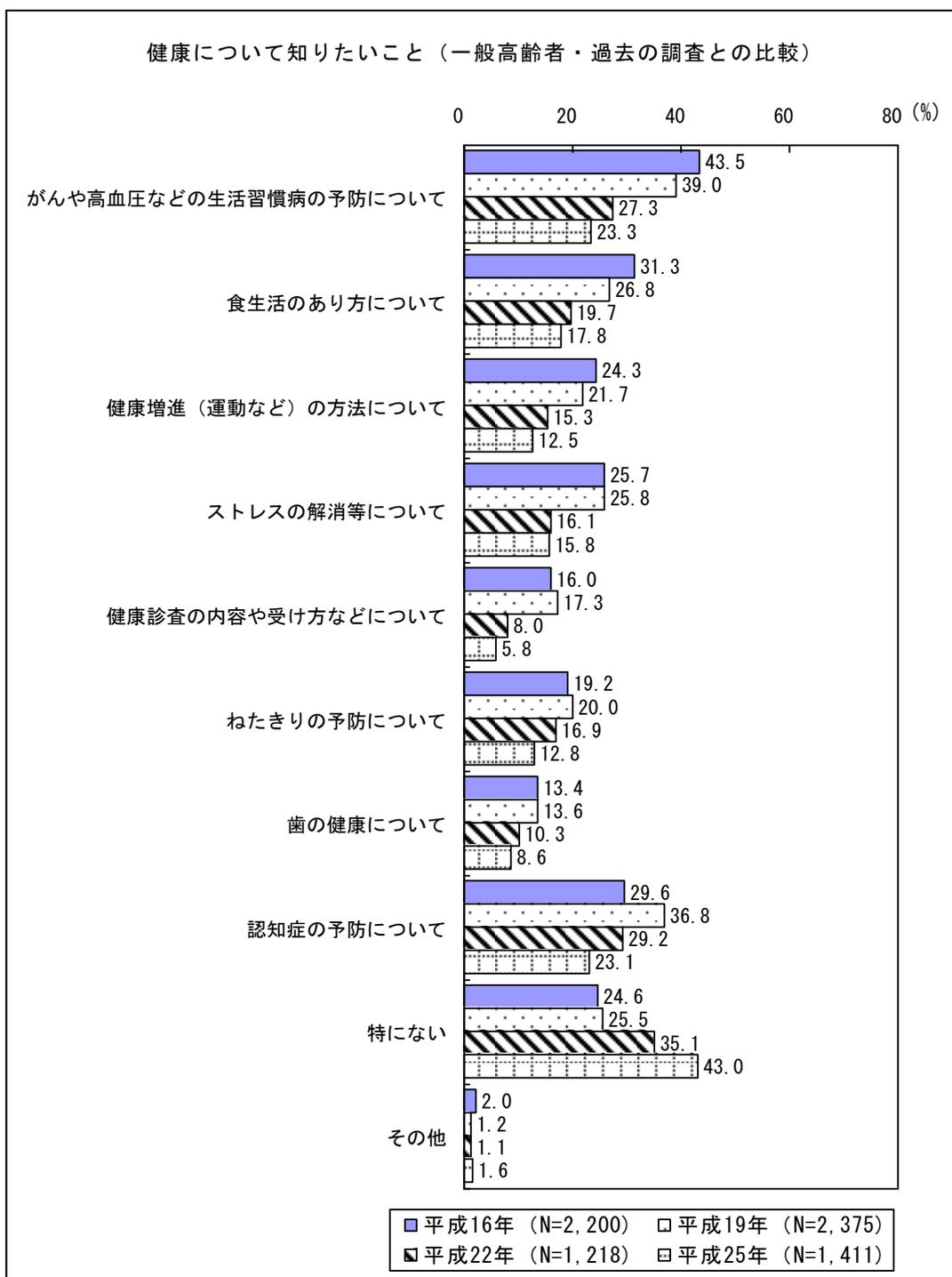
(1) 健康について心がけていること

一般高齢者に健康について心がけていることをたずねたところ、「毎日の食事や栄養に気をつけている」が62.0%と最も多く、次いで「なるべく歩いたり体を動かしている」が55.6%、「睡眠や休養を十分にとるなどして規則正しい生活を心がけている」が48.5%、「定期的に健康診断を受けている」が41.4%となっています。平成22年と比較すると「特に心がけていない」は5.4ポイント増加している一方で、それ以外の項目すべてが低くなっています。中でも「睡眠や休養を十分にとるなどして規則正しい生活を心がけている」は12.7ポイント減少しています。



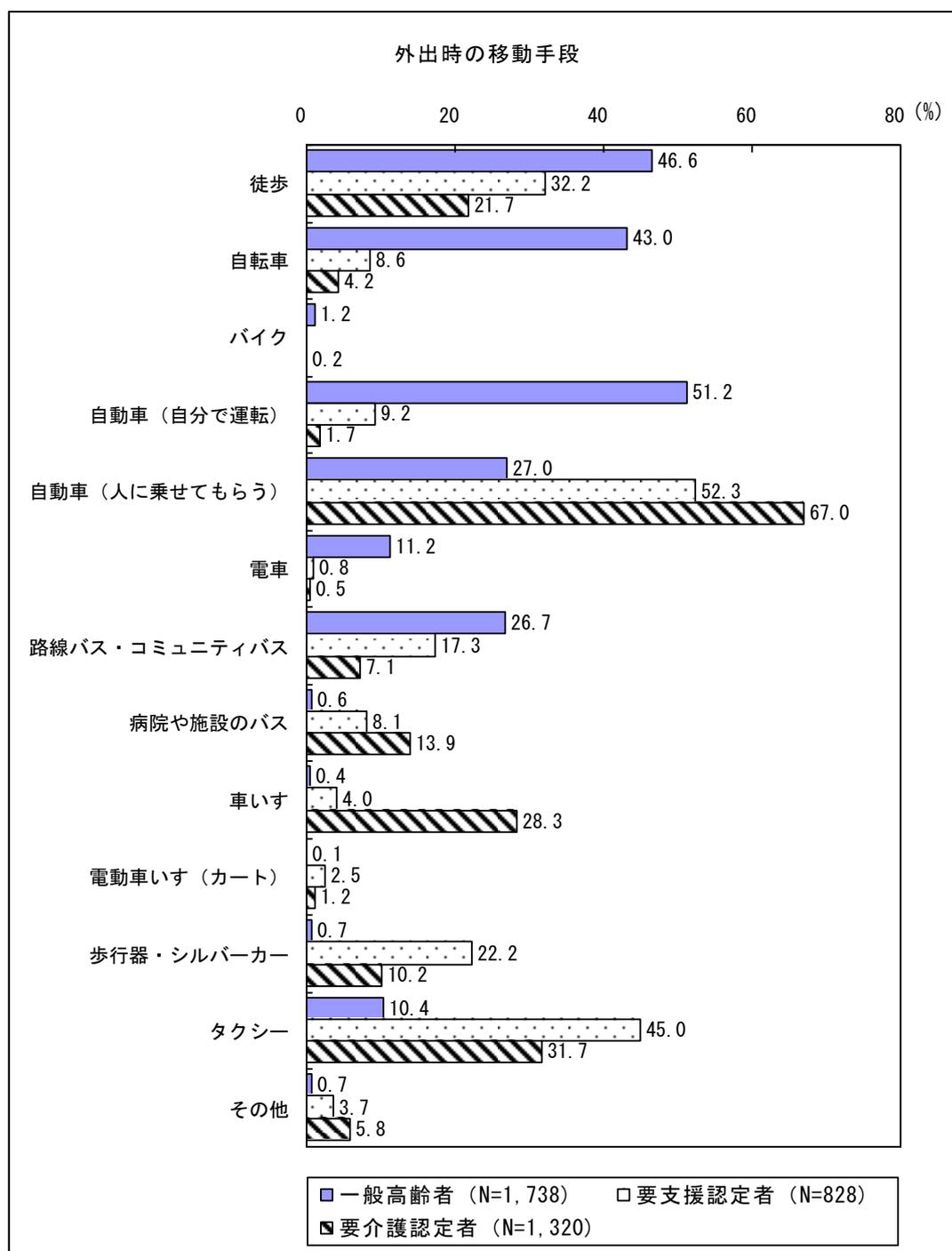
(2) 健康について知りたいこと

一般高齢者の健康について知りたいこととしては、「がんや高血圧などの生活習慣病の予防について」(23.3%) や「認知症の予防について」(23.1%) が多くなっています。平成 22 年と比較すると「特にない」は 7.9 ポイント増加している一方で、それ以外の項目すべてが低くなっています。



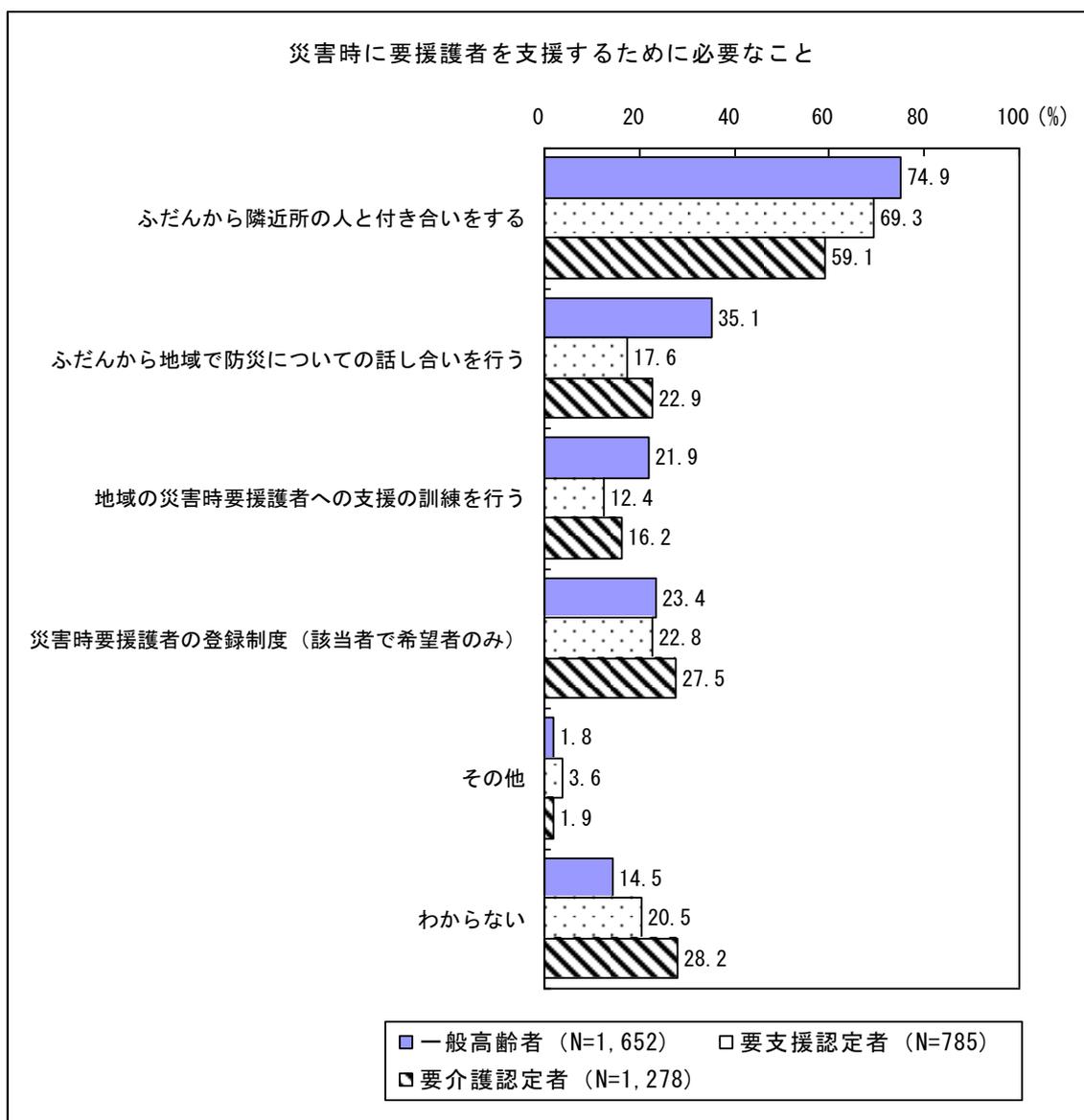
3 外出時の移動手段

外出時の主な移動手段として、一般高齢者は「徒歩」「自動車（自分で運転）」「自転車」、要支援認定者は「自動車（乗せてもらう）」「タクシー」「徒歩」、要介護認定者は「自動車（乗せてもらう）」「タクシー」が3割を超えています。「徒歩」「自転車」「自動車（自分で運転）」「電車」「路線バス・コミュニティバス」は、日常生活自立度が高い人ほど高くなっているのに対し、「自動車（乗せてもらう）」「病院や施設のバス」「車いす」「その他」は、その逆の傾向を示しています。「タクシー」は、要支援認定者が最も高くなっています。



4 災害時に要援護者を支援するために必要なこと

災害時における身近な地域の助け合いについては、一般高齢者、要支援認定者、要介護認定者とも「ふだんから、隣近所の人と付き合いをする」が最も多くなっています。日常生活自立度が低い人ほど「わからない」の占める割合が高く、「ふだんから、隣近所の人と付き合いをする」「ふだんから地域で防災についての話し合いを行う」「地域の災害時要援護者への支援の訓練を行う」が低くなっています。

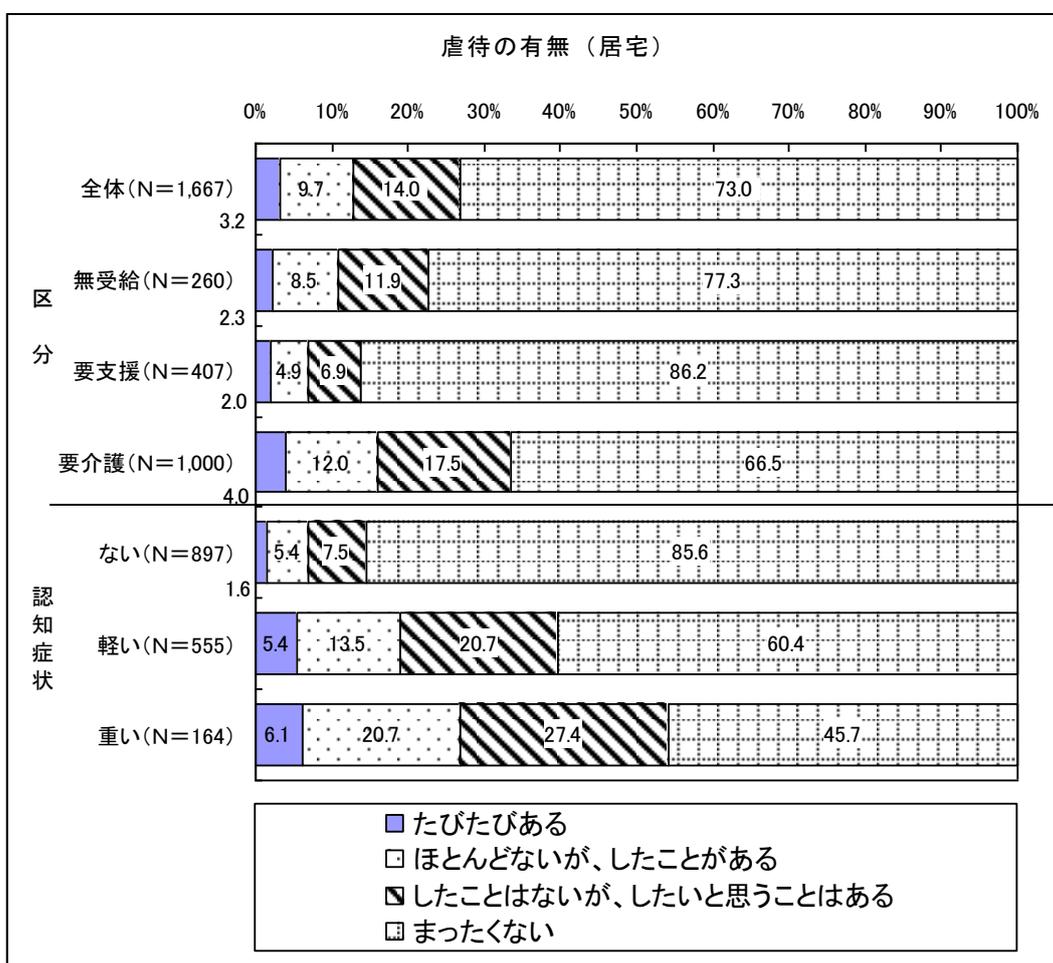


5 高齢者虐待

(1) 虐待の自覚

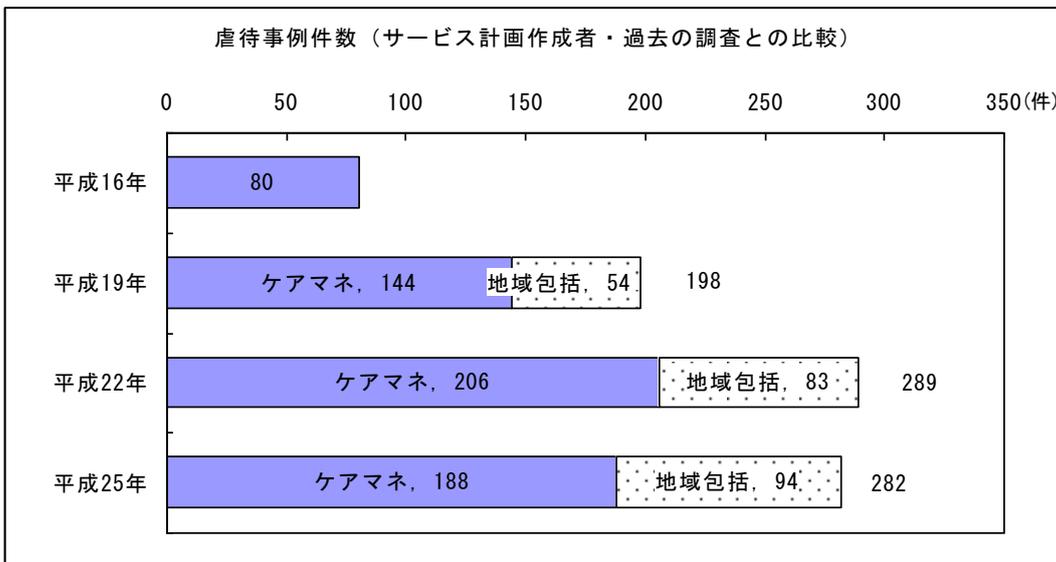
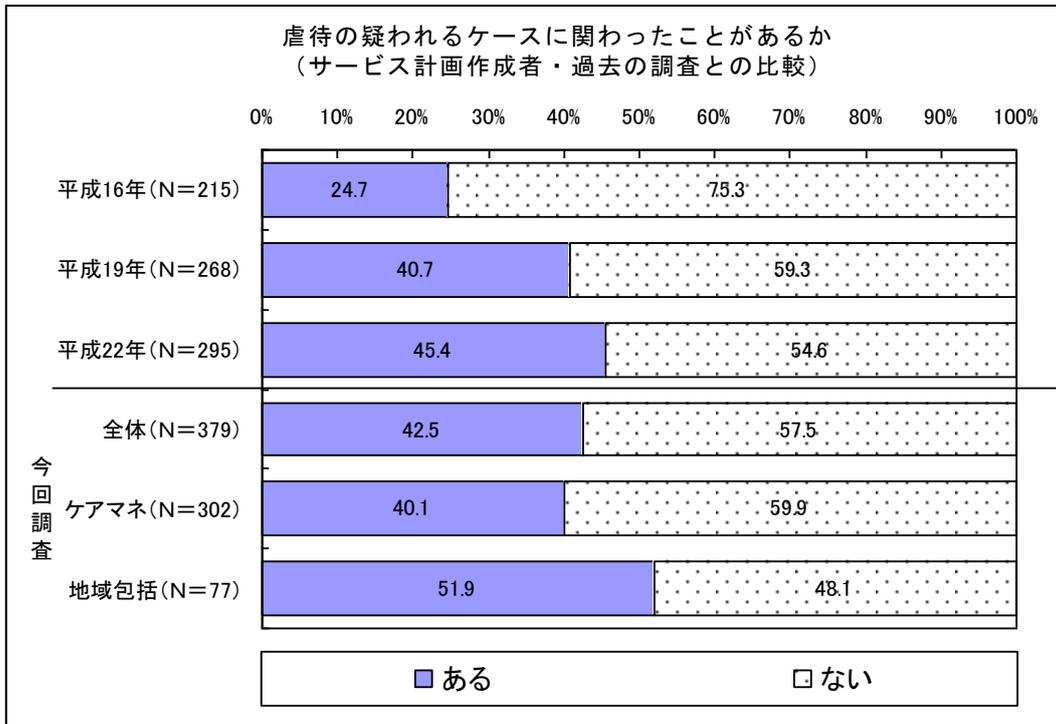
居宅要介護・要支援認定者の介護者に虐待の有無をたずねたところ、「たびたびある」が3.2%、「ほとんどしないが、したことがある」が9.7%、「したことがないが、したいと思うことはある」が14.0%となっています。特に要介護利用者は、上記3選択肢の合計が33.5%にもなっています。

認知症状別にみると、認知症状の重い人の介護者は、「たびたびある」が6.1%、「ほとんどないが、したことがある」が20.7%、「したことはないが、したいと思うことはある」が27.4%となっており、3選択肢の合計が約5割（54.2%）にもものぼります。

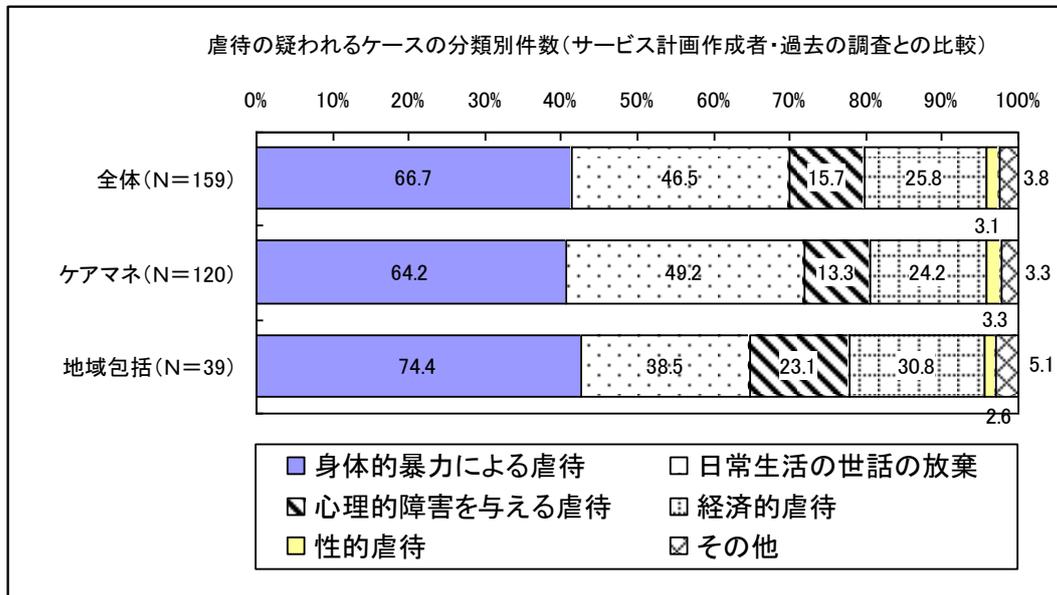


(2) 虐待事例

サービス計画作成担当者に虐待事例に関わったことがあるかを聞いたところ、「ある」が42.5%、「ない」が57.5%となっています。前回調査と比べると、「ある」と回答した人はやや減少しています。経年比較でみると、平成22年までは虐待事例に関わった比率・人数とも増加傾向にあったものの、平成25年では比率、人数ともにやや減少しています。



虐待の疑われるケースに関わったことがある人に、虐待の分類別の件数を聞いたところ、総件数159件中、「身体的暴力による虐待」が66.7%、「日常生活の世話の放棄」が46.5%、「経済的虐待」が25.8%、「心理的障害をえる虐待」が15.7%などとなっています。



(3) 虐待事例への対処

虐待の疑われる事例への対処方法としては、「他の施設・機関と連携して対処できた」が115件、「所属する施設・機関のサービスで対処できた」が58件、「他の施設・機関に対処してもらった」が9件であり、「対処できなかった」が22件となっています。

